

取組の概要

対象畜種

豚、鶏

協議会構成員

さんわ担い手組合、市原養豚研究会、市原市農業振興協会養鶏部会、市原市水田農業推進協議会

飼料用米生産面積

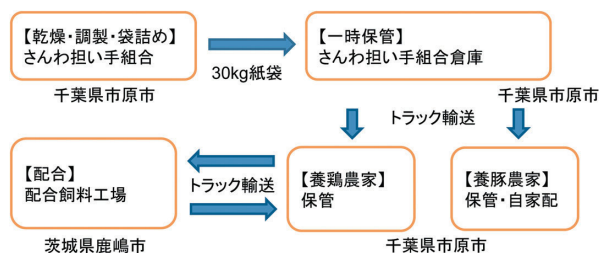
3.1ha

供試品種

ホシアオバ 0.4ha
クサホナミ 0.9ha
モミロマン 1.8ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆自己所有の乾燥調製機械を使用し、さんわ担い手組合自ら乾燥・調製・袋詰め。
- ◆収穫物はさんわ担い手組合に全量集荷。
- ◆組合の倉庫から直接畜産農家が搬出。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査

試験設計：各畜産農家で飼料に配合

調査項目：飼料用米給与後の家畜の状態確認、卵の質等の確認

結果：○豚 給与については、特に問題なく食べていた。ただ、玄米で給与したため、全ては消化できずに一部糞の中に未消化で排泄された。

○鶏 採卵鶏については、給与割合が少ないこともあり特に変化はなかった。

鶏卵については、黄身の色が若干薄くなった程度で、他に大きな変化は見られなかった。

考察：給与した家畜については、特に影響は見られなかった。畜産物については大きな影響は見られなかった。

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 食用米に比べて飼料用米は粒が大きいので、もみすり機の振動篩上での分離が悪く、再循環する粉の量が多かったので、機械へ大きな負担となっていました。
- 籾殻が固いためコンバインに負荷がかかり、回転ベルトが切れる事故がありました。
- 乾燥後の水分の低下が一律ではありませんでした。これは、とう熟に差があったためか、収穫時期が遅く、秋雨にあたったためと考えられます。
- 既存の水稻用機械・設備を利用できることは非常に利点ですが、食用米と粒の大きさが違うため、各種機械を使う際の微調整が大変でした。
- 一年を通じて供給するには、保管庫の整備が必須であると感じました。
- 畜産農家までの移送は、破袋等の事故もなく実施できました。
- 流通作業の効率化のためには、フレコンの整備が必要であると感じました。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

養豚

- 食べ慣れないせいか、最初の1週間は食いつきがよくなりました。しかし、その後良く食べるようになりました。
- 糞に玄米が未消化の状態が出ていました。粉碎の必要性を感じました。
- 親豚の繁殖成績に影響はありませんでした。
- 肥育豚の肉質には特に影響は見られませんでした。

養鶏

- 鶏の様子や卵の質などには特に影響は見られませんでした。
- 卵黄の黄色を維持するためにパプリカを添加しました。
- 食味をしたところ、飼料用米を給与したゆで卵の黄身がしっとりして美味しく感じるとの声がありました。しかし、生卵は味がさっぱりしている、悪く言うとコクが無いとの意見もありました。

3. 今後の飼料用米の取組予定などについて

苦労した点

- 営農上の飼料用米生産の意義を理解してもらうことが大変でした。
- 販売価格の設定や生産・流通のしくみを決定するため何度も会議で議論を重ねました。
- 飼料用米の需要量を見込むことが困難でした。
- 指導機関としては、現場で全ての作業に立ち会わなければならないことが大変でした。

飼料用米のメリット

- 既存の水稲用の機械を使えることは有利でした。
- 晩生の専用種を作付したので主食用の水稲と作業的な競合が避けられました。
- 特別な技術は必要なく、慣行の栽培技術で作業ができました。
- 栽培については低コスト・省力的に行えました。

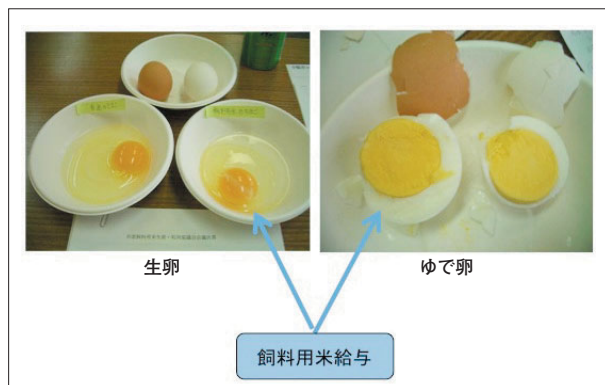
今後の取組予定

- 新しい品種に取り組みます。
- 協議会に消費者団体や飼料会社にも参加してもらい、畜産物の商品化について意見交換を行い、商品作りに反映させていく予定です。

抱負

- 消費者交流も含めた取り組みへ発展させたいと考えています。
- 耕畜連携を進め、お互いが補完できる営農の協力を深めたいと思います。

千葉農林振興センター企画振興課
岩澤 進
有路 優子



参考データ・写真等



クサホナミ



ホシアオバ



モミロマン



試食の様子